

IFocus

Eruption

浅間山が小規模噴火。
軽井沢から関東南部の広い範囲で降灰。
今後も中規模噴火に警戒を



2月2日、2時9分、嬬恋村大笹から撮影(写真提供=まえちゃんねっと)

長

野・群馬県境の浅間山(2568m)が、2月2日1時51分、小規模な噴火を起こした。火口から約1kmの範囲に噴石が飛散。噴煙は火口縁上約2000mまで上昇した。

その後、火山灰の噴出は8時ごろまで続き、火山灰は北西の風に乗って、南東側の長野県軽井沢町をはじめ、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県に降

った。千葉県では太平洋側の鴨川市でも降灰が確認されている。気象庁は、今後も火口から半径約4kmの範囲で噴火による大きな噴石が飛散する可能性があるとして警戒を呼びかけている。

同庁は噴火直前の1日13時、浅間山について「居住地域の近くまで影響を及ぼす噴火が切迫している」として、噴火警戒レベルを2(火口周辺への立入規

制)から3(登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制)に引き上げたばかりだった。

噴火直後の2日は浅間白根火山ルート(鬼押ハイウェイ)と白糸ハイランドウェイの通行が規制されたが、3日には解除された。

浅間山では2日以降、噴火の発生はなく、噴火が切迫していることを示す傾斜変化や火山性

地震の活動はほとんどなくなっている。しかし、噴煙量や火山ガスの放出量が多いなど、5日現在も火山活動が高まった状態が続いている。

浅間山は04年9月1日から約3カ月間、中規模噴火を繰り返す火山活動が継続した。この事例から、気象庁では今後も居住地域の近くまで影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある予想している。浅間山は現在も噴火警戒レベル3(火口から半径4km以内の立入禁止)が続いている。登山道では、車坂峠より先の車坂山、黒斑山、蛇骨岳、Jバンドを経て賽の河原までの登山道が、浅間山荘から先は、一の鳥居、火山館、湯ノ平口を経て賽の河原に至る登山道と、湯ノ平口から草すべりを経てトミミの頭へ合流する登山道が立入禁止だ。

なお、火口から西に約5km離れた高峰温泉では揺れもなく、宿泊者は朝のニュースで噴火を知ったほどだったという。

浅間山登山規制の問合せ先|| 小諸市役所経済部商工観光課 観光係 ☎0267-26-0210

(文||宮崎英樹・本誌)